

JBP 活動報告書 2025 年度

釧路ガス株式会社

プロジェクト名: 釧路港発海と街をつなぐ「コンブの森」地産地活プロジェクト

申請者: 釧路ガス株式会社・株式会社 JBP

港で育てたコンブが、街の脱炭素になる。

――釧路ガス×JBP、3年間の実証から生まれた「地産地活」Jブルークレジット取得支援

〔背景・釧路ガスについて〕

釧路ガス株式会社（1936年創業・創業90年）は、釧路市・釧路町において約**68,000**件の家庭・事業者天然ガスをパイプラインで供給する地域エネルギーの要です。同社は地元都市ガス事業者として釧路市の**ゼロカーボンシティ宣言**への貢献を目指し、「ブルーカーボンを創出し、地元でオフセットする『地産地活』モデル」の実現に向け、2022年よりJBPとの協働を開始しました。

〔プロジェクトの特徴・手法〕

本プロジェクトは釧路港西港区という国が保有、釧路市が管理する特殊な環境を活用した、国内でも先駆的なロープ式コンブ種苗養生によるブルーカーボン創出の取り組みです。JBPが2022年から釧路港西港区島防波堤において重ねてきた実証実験の知見を活かし、本格展開を実現しました。

〔活動軌跡：3年間の実証から本格展開へ〕

- 2022年9月釧路ガス株式会社とのパートナー企業契約を正式締結。
- 2023年5月～11月：「釧路ガス 昆布の森づくり」構想を発表・記者発表。指定海域にブイ5個を設置し、昆布種苗を取り付け実証実験実施。
- 2024年4月～5月：ブイに昆布の養生を確認。2024年5月22日に記者発表を実施。
- 2024年11～12月：釧路港西港区第4埠頭付近の海域にコンブ種苗付きロープ300mを投入（本格展開フェーズ開始）。地元小学生向け**参加型環境教育**（「環境問題を"自分ゴト"に」）も実施
- 2025年8月：ロープ上でのコンブ順調な生育を確認。Jブルークレジット申請のためのデータ収集。

- **2025年9月** 釧路市東部漁協様が取得した地域初の「Jブルークレジット」を購入し、くしろ港まつりパレードのCO₂をカーボンオフセット。「地産地活」モデルを初めて実現
- **2026年3月19日**：「Jブルークレジット（J-ブルーカーボンクレジット）」の認証取得（0.2t）・交付式にて「Jブルークレジット」発行証授与される。

〔数値で見るプロジェクト規模〕

- 実証期間：約**3年間**（2022年3月～2025年）
- 本格展開ロープ長：**300m**（釧路港西港区第4埠頭付近）
- 実施期間（クレジット対象）：最長**令和**8年度末**（2027年3月）まで

〔JBPの支援内容〕

JBPは2022年の実証実験立ち上げから・二酸化炭素吸収源の造成計画策定・現場観察・CO₂吸収量計測手法の設計・「Jブルークレジット」申請書類の作成まで、本プロジェクトの企画・技術・申請の**全フェーズを一貫して支援**しました。

〔今後の展望〕

釧路ガス（株）は、2026年度も環境教育を継続し、ブルーカーボンから藻場育成まで横断的な学習プログラムに発展させる計画。将来的には昆布の森で創出したクレジットを活用した「**カーボン・オフセット都市ガス**」として地域へ供給する新たなビジネスモデルの構築を目指しています。釧路市のゼロカーボンシティ宣言の実現に向け、漁業支援・地域創生・域内循環・ビジネスモデル構築という段階的なビジョンのもと、活動を行います。